

「つなげる支援室」って何してるの？

～断わらない相談支援・つながり続ける支援の体制づくりに向けて～



職員

つなげる支援室では、ご相談の内容に応じて次の対応を行っています。

- ・ケース会議への参加
- ・支援関係機関を集めてのケース会議
- ・支援関係機関などへの情報提供や助言

また、よりよい支援の体制づくりについての検討会議や、相談担当職員などへの研修、庁内職員の窓口対応のスキルアップにも取り組んでいます。



ご本人やご家族が身近な相談窓口へご相談された際に、とても複雑なご事情を抱えておられると分かったときには、ご本人の同意を基本として、相談窓口から当室に相談がつながります。その中で、ご本人やご家族への情報提供や助言を行うこともあります。

色々な機関からの相談があるんですね。今まではどんな内容の相談があったんですか？



市民



新型コロナウイルス感染症の影響もあり、生活困窮・生活保護関連の部署からの相談が3割以上で最も多かったです。大変なご事情を抱えている方が、お金のことをきっかけに初めて福祉の相談窓口へお越しになられた、というケースも複数見られました。

そうなんですね。そういう相談はつなげる支援室にどうやってつながるんですか？



それぞれの相談窓口が、日々の相談業務の中で、大変な事情を把握したことをきっかけに当室へご相談いただくことがほとんどです。また、市議会関係や新型コロナウイルスワクチンの訪問接種の担当窓口などからも、ご本人の同意を得てつながってくることもありました。

相談している人にも色々な人がいると思うけど、近頃ニュースになっている「8050問題※」なんかの相談もあるんですか？



※「8050問題」

中年期（50代）になった「ひきこもり」状態の子を高齢（80代）になった親が扶養し続けており、世帯全体として大きな困難を抱えている。そんな世帯が全国的に存在し、社会問題となっています。（全国の40～64歳の1.45%・61.3万人がひきこもり状態と推計されています。（内閣府（2019年））



「8050問題」を抱える世帯や、その可能性が高いと思われる世帯に関する相談が比較的多くありました。例えば、ご本人と関わりを持った方や地域の関係機関から、ご本人やご家族を心配しての相談が市役所の相談窓口に入り、当室につながってくる、などでした。



他にも、世帯で見ると19歳から64歳の単身世帯、高齢者世帯、ひとり親世帯が多くありました。世帯全体が社会的に孤立していて非常に助けを求めにくい、疾患や障がい、依存症を抱える家族がいる、といった様々な困難を抱える方がおられました。

そうなんですね……
私たちにも、できることはあるのでしょうか？



ありがとうございます。まずは、地域には様々な方が生活しておられるとご認識いただきたい、と考えています。その上で、少し周りを見渡していただき、困っている人がいたら少しお話をお伺いする。そして、相談窓口の情報提供や、可能であれば相談につないでいただく。これらを、できる範囲で取り組んでいただければ幸いです。



困っている人の存在に気づくには、地域での日々の生活や様々な活動などを通じた、地域の中での見守りがとても重要になってきます。

なるほど。地域みんなで見守ることで、住みよいまちになって、わたしたちもこのまちで安心して暮らし続けることができますね。

